

学部から大学院へ、そして研究所へ

人々と地域・国際社会のより良い未来のために
有機的に連結する京都大学の教育・研究

専門性を応用・実践していく
附属の**13**研究所



専門性を高めて研究所につながっていく
20の大学院と専門職大学院



専門性の基礎を固めて大学院につながっていく
10学部



Special Feature

私たち、
特色入試で
京大生に
なりました。

多様な個性を求める「特色入試」に挑み、
突破した5人はどんな高校生だったのか。

京大で学ぶ今と将来をあわせて紹介します。



特色入試では頑張った生徒会や文芸部での経験が活かせると感じ思いきってチャレンジしました

- **どんな高校生だったか**／中高一貫校だったこともあり、1年生の頃は勉強より課外活動に励んでいました。京大を意識し始めたのは、委員をした文化祭が終わった高2の秋。学校行事で見学しに行き、レトロな雰囲気が残るキャンパスに憧れたのがきっかけでした。
- **特色入試の志願動機と受験準備**／頑張った生徒会の役員経験などを評価してもらえたらうれしいと考え、特色入試への志願を決めました。論文試験では部活の文芸部で小説を書いていたことを活かしましたが、幼い頃から多くの本を読み、身につけていた読解力や速読力も役立ちました。
- **現在の学びと将来の目標**／国会図書館の職員をめざしていますが、これは文学部の特色入試課題だった「学びの設計書」に記した目標です。一方、学びたいとしたのは日本文学でしたが、今は民族舞踊サークルの活動を通じて魅かれたスラブ文学を専修しており、自身の“意外性”にびっくりしています(笑)。



文学部 人文学科2回生
天野 そよかさん
奈良県 奈良学園高等学校 出身



理学部 理学科2回生
中桐 正人さん
兵庫県 灘高等学校 出身

受験のための数学力ではなく“本物の数学力”が問われたことで京大生になれたように思います

- **どんな高校生だったか**／とにかく数学が大好きで、部活も数学研究部に入り、数学オリンピックの出場をめざしていました。また、日常的に難問・奇問を遊び感覚で解いていましたが、問題をつくるのも楽しくて、時間を忘れて没頭してしまうこともよくありました。
- **特色入試の志願動機と受験準備**／進学塾の先生から「数学力のみで突破できるかも」と勧められたのが受験動機です。実際、数学の試験は4問を4時間かけて解くのですが、高校生が全問正解できるレベルの問題ではないんです。ところが口頭試問で“誤答の理由”を問われ、試験後ひたすら考え抜いていたことを述べたら……こうして京大生になれました。
- **現在の学びと将来の目標**／純粋数学の理論研究に打ち込む毎日ですが、視野を広げる必要性を感じ、神経心理学なども興味をもって学んでいます。理学部の卒業後は博士課程まで進み、数学の研究者として生きるのが目標です。



私たち、特色入試で京大生になりました。



旺盛な好奇心や多様な経験が
特色(ユニーク)と評価されるのも
京大ならではの感じます

教育学部 教育科学科2回生
唐澤 和さん
東京都 東京学芸大学附属高等学校 出身

●**どんな高校生だったか**／放送委員会でアナウンサーやフロアディレクターみたいなことをしたり、体育祭や文化祭などの学校行事にスタッフとして関わったり、軽音楽部でドラムを叩いたりキーボードを弾いたり、振り返れば「恥ずかしい」と思うほど好奇心旺盛で、スケジュール帳を予定で埋め尽くすのが大好きで、いろんなことに首を突っ込んでいました(笑)。京大については、「自由の学風」に漠然とした憧れを抱いていましたが、特色入試にチャンスを感じなければ、実家から通える東京の大学に進んでいたかもしれません。

●**特色入試の志願動機と受験準備**／担任の先生に勧められたのがきっかけですが、当初は“凄い人”ばかりが受けると思い込み、怖じ気づいていました。なのでさほど期待せず、眼前のチャンスを受け止めようといった感覚でチャレンジしたら合格し、周囲も私自身も驚きました。もちろん努力はしましたし、口頭試問では教員養成系大学の附属校という特殊な環境に小中高と過ごして感じた教育学への興味と疑問、学校の内外で取り組んだ多様な課外活動の経験などを述べました。これらが“特色(ユニーク)”として評価されるのも京大ならではの気がします。

●**現在の学びと将来の目標**／1年次の専門科目「教育研究入門」では前期に「女子大はなぜ存在するか」を、後期に「図書館はなぜ飲食禁止なのか」をテーマに定め、それぞれ半年間の調査を重ねてプレゼンしました。将来については、メディア系の企業で働きたいなど“ぼんやり”考えています。いずれにせよ特色入試という個性の多様化を求める新しい試みに応えて入った京大です。多くの人の価値観に影響を与え、人を内面から幸せにしていこうという目標をもちつつ、今後も自身の個性や特色を大切にしていこうと思っています。



自身で自分の教科書をつくったり 日々文章を読んで考えをまとめたり そんな経験が活かされたと思います

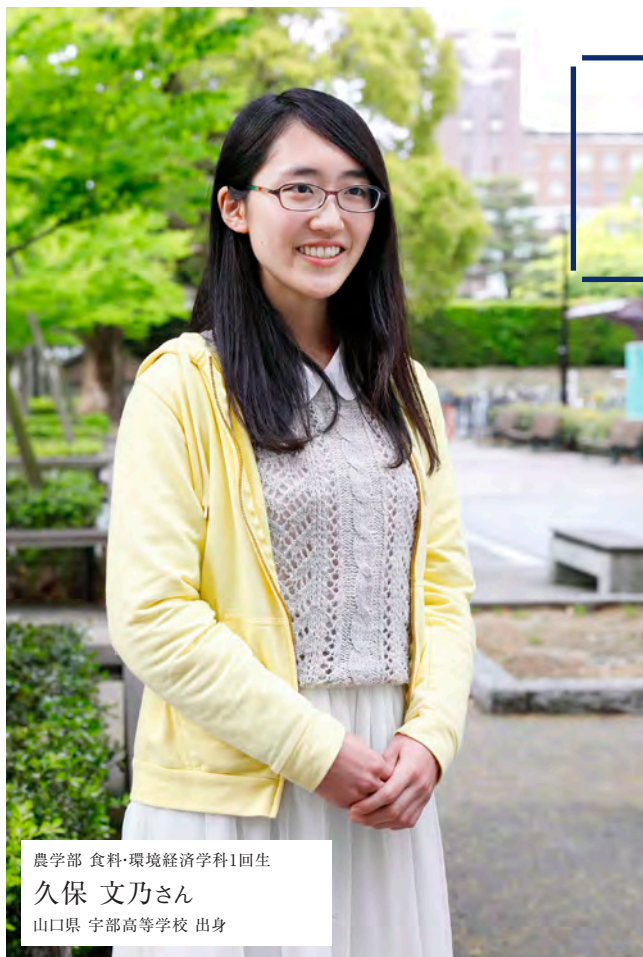
- **どんな高校生だったか／通っていたのは一般的な勉強をほとんどしない表現力重視の学校でした。それで最終学年、「卒業プロジェクト」なるものに取り組むのですが、僕は1カ月半ほど中国を旅して感じたことをレポートしました。バレーボールの部活に打ち込んだり、それまでなかった文化祭やサッカー大会を開催したり、いろんなことを頑張りました。**
- **特色入試の志願動機と受験準備／自身で自分の教科書をつくったり、日々文章を読んで考えをまとめたり、そんな経験が活かせると感じた特色入試。特にアピールしたのは、バレーボール部を主将として引っ張り続けた経験です。**
- **現在の学びと将来の目標／ミクロ経済と組織論を興味深く学んでいます。また、あくまで“野望”なのですが、今のクルマ社会を“鉄道社会”に変革してしまう構想も練っていて、その実現はさておき、卒業後は鉄道会社に勤めようと思っています。**



経済学部 経済経営学科2回生
今村 淳暉さん
京都府 京田辺シュタイナー学校 出身

特色入試で京大をめざすなら 興味のある“ある”ことも“ない”ことも なんでも経験すべきだと思います

- **どんな高校生だったか／理系なのに数学が苦手な、得意なのは英語でした。部活も英語部に入り、英語のディベート大会に出場したりしました。高校2年では1年間、アメリカのミネソタ州に留学し、ホームステイしながら現地のハイスクールで勉強しました。**
- **特色入試の志願動機と受験準備／憧れの京都に暮らし、京大の農学部で農村や食料問題を学ぶには、私にとって英語力が活かせる特色入試が最適でした。1年間のアメリカ留学中に培った多様性への適応力、視野の広さがアピールできると思ったのも志願動機のひとつです。**
- **現在の学びと将来の目標／まだ1年次なので“農学とは何か”を主に学んでいます。やがては発展途上国の農村の生活水準を向上する方策を研究したいと思っています。その発展として、農業経営や農村の自立などに関する国際協力事業に携わるのが将来の目標です。**
- ◎ **受験生の皆さんへ／一般入試、特色入試に限らないで、興味のあることはもちろん、興味のないことにも取り組み、様々な経験をして教養を深めてもらいたいと思います。**



農学部 食料・環境経済学科1回生
久保 文乃さん
山口県 宇部高等学校 出身

京都大学の教育

教育課程、すなわち「カリキュラム」は個々が歩む道筋を示す言葉です。そこには与えられた課程を受動的に辿るのではなく、自身の将来を見据えながら、自身で見つけた道を能動的に歩いていくことへの合意がふくまれています。京都大学では学部から大学院に至る、すべての教育にこの考え方が貫かれており、学生の主体性に応える“柔軟な学び”を最大の特徴としています。

与えられて学ぶ“生徒”から
求めて学ぶ“学生”に変換していく

教養・共通教育

どの学部であっても入学後、まずは国際高等教育院による「教養・共通教育」が行われます。この「教養・共通教育」では専門科目を学ぶ前に、あるいは専門科目と並行し、文理を問わない専門外の分野をふくめ、人類の叡知や学問の脈略を幅広く学習します。あわせて京都大学の教養・共通教育には3つの目的があり、次代に向けて養うべき能力を基軸に、次の3分類に大別されています。

〈1_学術的教養を養う〉

これまで人類が築き、今も築きつつある学問・研究に広く向きあい、その方法論や探求姿勢の修得です。そのための取り組みは学問という領域を超え、人生観や世界観におよびます。これらを通じて人間的に成長しながら、専門的な学びや研究の土台となる学術的教養力を養っていきます。

〈2_文化的言語力を養う〉

自分の言葉(言語)で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを表現して他者に伝える方法の修得です。そのための言語学習には、自国語の高度な運用能力の涵養はもとより、自身の専門性を活かし、世界的に活躍するために不可欠な外国語の修得がふくまれます。また、こうした文化的言語力を養うには他者や異文化を理解し、多様性を受け入れる姿勢が重要であり、京都大学では“英語で学ぶ”全学共通科目の提供や言語の自習環境の整備を進め、海外留学を後押ししています。

〈3_基礎的知力を養う〉

専門科目の学修に必要な基礎的知力の修得です。そのための学びには、社会や学術研究をリードしていく際の基盤となる知識・技能の修得はもとより、予想不能なほど複雑な状況下、適切な課題解決法を見つけるために必要な姿勢の涵養もふくまれます。

*

なお、これらを履修するだけで、3つの目的が達成できるわけではありません。大切なのは学生の主体的で能動的な関わりであり、与えられて学ぶ“生徒”から求めて学ぶ“学生”へ、変換を促すことこそ、京都大学「教養・共通教育」が掲げる目標に他なりません。



教員との関係性を深めつつ

専門的な知識・技能を修得していく

学部での専門教育

教養・共通と併行して「学部での専門教育」が始まります。専門教育の占める割合は1年次から学年とともに増してゆきます。

また、学部によって異なりますが、専門教育では学科やコースなど、専門分化された課程での学びに取り組みます。この間、講義で知識を得るだけでなく、実習や演習など、専門分野に特化した技能を修得するための学びも増えてきます。

こうした専門教育は少人数制の利点をもつことも多く、教員との対話も深まります。さらに卒業に向けた“学びの総決算”として、卒業研究や卒業論文、国家試験の受験・合格などの課題が与えられます。

自ら発見したテーマを自ら学び

より高度な専門性を獲得していく

大学院での教育・研究

京都大学では例年、学部で学士の学位を得た卒業生の約60%が上位学位(修士・博士)の取得をめざし、大学院に進学します。

〈修士課程〉

「修士課程」には大きく分けて、研究者養成のための従来型大学院、実務家養成のための専門職大学院、2つの課程があります。

また、京都大学の大学院には他学部や他大学の卒業生、社会人経験者や留学生も多く、幅広い年齢層や多様なキャリアをもつ人々との関わりが得られます。ただし、大学院では自らテーマを発見し、自ら学ぶことがさらに重視され、“良い答え”を見つけるだけでなく、“良い問い”を発することも重視されます。

そのような修士課程の修了に際しては、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の合格が、それぞれの総仕上げとなります。

〈博士課程〉

修士課程の修了後、研究者や高度な専門家をめざして進む「博士課程」では本人の意欲に応じ、京都大学ならではの充実した研究環境の恩恵を最大限に受けられます。

博士課程では研究テーマを自ら定め、立案した研究計画に基づく指導を教員から受けます。あわせて国際会議での発表や学術雑誌に向けた論文執筆なども本格化、自立した研究者としての活動が始まります。こうした研究の成果を博士論文にまとめ、審査に合格すると国際的通用度の高い「博士号」が授与されます。

なお京都大学では時代のニーズに応え、高度な専門性と幅広い視野を併せもち、社会の多様な分野で活躍できるリーダーの養成を目的とする「5年一貫の博士課程教育リーディングプログラム」を提供しており、海外の大学との共同学位プログラムも多分野で実施しています。



Close-up

京都大学の教養・共通教育を担う 全学共通科目

京都大学の教養・共通教育は、学部の枠組みをこえて学ぶ「全学共通科目」が主に担っており、以下8群に分類されています。

※記載の開講科目数は平成29(2017)年度実績であり、平成30(2018)年度はこの限りではありません。

〈人文・社会科学科目群〉

人文・社会科学科目群は次の8分野を開講しています(全275科目)。

- 哲学・思想 ● 歴史・文明 ● 芸術・文学・言語 ● 教育・心理・社会
- 地域・文化 ● 法・政治・経済 ● 外国文献研究
- 日本理解(外国人留学生対象)

〈自然科学科目群〉

自然科学科目群には、数学、統計、物理学、化学、生物学、地学を主な内容とする科目の他、これらを横断する応用的な科目が多様に開講されています。これらには専門教育の一般的基礎となる科目をはじめ、全学生に共通する教養的な内容の科目もあります(全225科目)。

〈外国語科目群〉

全学共通科目として開講している外国語科目は次の10言語です(全117科目)。

- 英語 ● ドイツ語 ● フランス語 ● 中国語 ● ロシア語
- イタリア語 ● スペイン語 ● 朝鮮語 ● アラビア語
- 日本語(外国人留学生対象)

外国語教育においては学術的素養の涵養と学術的言語技能の修得をめざすと共に、異文化理解と外国語運用力の向上にも努めています。

〈情報学科目群〉

情報学科目群は基礎と各論に分類されており、基礎科目は下記3科目を中心に開講しています(全53科目)。

- 情報基礎 ● 情報基礎演習 ● 情報と社会

〈健康・スポーツ科目群〉

健康・スポーツ科目群は次の2科目に区分し、開講しています(全46科目)。

- 健康科学科目 ● スポーツ実習科目

〈キャリア形成科目群〉

キャリア形成科目群は次の5分野を開講しています(全44科目)。

- コンプライアンス ● 国際コミュニケーション ● 学芸員課程
- COCOLO域 ● その他キャリア形成

〈統合科学科目群〉

統合科学科目群は次の4分野を開講しています(全26科目)。

- 統合科学* ● 環境 ● 森里海連環学 ● その他統合科学

*統合科学は後期5限目に開講され、人類社会の持続的発展と深く関わる主題について、文系・理系双方の教員を交えた対話型の授業を通じて多角的な視点から、対象の考察法を習得することをめざしています(下記は考察する主題の例)。

- ◎ 生命と社会～生命科学の進歩と人の生活
- ◎ 生命と社会～自然と人の関わり
- ◎ 閉じた地球で生きる(エネルギー消費と環境)
- ◎ 持続可能な地球社会をめざして(エネルギー消費と環境)
- ◎ 自然災害の科学
- ◎ エネルギーを取り巻く環境
- ◎ 地球環境と人類とのバランス

〈少人数教育科目群〉

少人数教育科目群は原則的に前期5限目に開講し、主に日本語で実施する「ILASセミナー」、英語で実施する「ILAS Seminar-E2」で編成されます。どちらも新入生が主対象です。方式は各学部・研究科・研究所・センター等の教員が、5人から25人程度の学生に向けて行う少人数のセミナー形式とし、多様なテーマを考察します。

テーマは、医療、言語教育、東洋史、日本古典、政治学、社会学、過疎問題、地震、天文学、文化人類学、豊かさ、エネルギー需給、海洋生物など。京都大学ならではの豊富なテーマから、自ら考え、読み、議論し、書くという取り組みます。

これらの他、海外での実地研修をふくむ「ILASセミナー(海外)」も開講されています。

Point | 英語教育の充実と“英語で学ぶ”教養・共通教育

- 京都大学では学生の英語力を向上させると共に、教育・研究環境の国際化を進展することを重視し、英語によるコミュニケーション能力の充実につながる科目編成をしています。
- なかでも1年次の「ライティング・リスニング」授業は1クラス約20名の少人数で実施、年間の半期は英語のネイティブスピーカー教員が担当します。
- リスニングでは、ICTを活用した自習教材に授業時間以外で取り組むことが必須となっている他、学術語彙の充実にも注力しています。
- さらに1年次の4月と12月には「TOEFL ITP」試験を実施、学生に自身の英語能力を自覚させると同時に、国際学術言語教育センター(i-ARRC)による学習サポートを行います。
- あわせて“英語で学ぶ”教養・共通教育の充実も進んでおり、多くの科目が「日本語で学ぶか」それとも「英語で学ぶか」が選択可能になっています。

総合人間学部

総合人間学部は、たえず変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わりようとする志をもつ人、人類が直面する様々な課題に向きあう進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたと考えられる人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得することに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。

総合人間学部の入学者選抜は、京都大学の一般入試において、文系と理系の2つの募集区分を設け、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。



Admission Policy

京都大学入学受入れの方針

教育学部

本学部は、教育と人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことにより、心、人間、社会についての専門的識見を養成し、さらに広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判斷力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓発することで、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材の育成を目的としています。本学部は、以上の目的を理解し、本学部での学修を希望する者に対して、①総合的な基礎学力、②人間と社会についての深い関心と洞察力、③柔軟な思考とゆたかな創造力をもち、大学教育を通して、人間と社会、教育や心理についての関心を深め、論理的・批判的的思考力、問題解決力とコミュニケーション能力を身に付けることができる学生を求めています。それらを大学入試センター試験及び「文系」型又は「理系」型の個別学力検査により評価します。また、いったん他学問分野での専門教育を受け、あるいはさらに社会経験を積んだ本学部以外の大学卒業生で、再度、教育諸学における専門教育の勉学を志す者に対しては、学士入学（第3年次編入学）の選抜試験により、同様のことを評価します。

さらに、特色入試選抜においては、上記に加え、④教科及び総合的な学習の時間などにおいて、学習を深め、探究活動を行い、卓越した学力を身に付けていること、あるいは、学校内外の活動で豊かな経験を積み、熟達を通して、深い洞察力を得ていること、⑤将来、主体的に社会に貢献する志をもっていることを、提出書類、課題と口頭試問に基づく選考、大学入試センター試験により評価します。

法学部

21世紀に入り、地球規模での交流が活発化し、科学技術や産業の革新が進む中、世界も日本も大きな転換期を迎えている今日、広い視野から国家や社会のあり方を深く考え、新たなビジョンを示して、時代を切り拓いていく優れた人材が求められています。

このような要請に応えるため、京都大学法学部は、自由の学風の下、豊かな教養を涵養し、国家・社会の制度や組織の設計及び運営等に必要なる法学及び政治学等の基本的知識の修得並びに思考力、判断力、構想力及び表現力等の育成を図り、グローバルな視野から、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉え、多様な価値観や文化を尊重し、地球・自然環境に配慮しつつ、多面的な課題の解決に取り組み、人々が協働し共に生きる社会の実現に貢献できる優れた能力と高い志を備えた人材を養成することを教育目標としています。

1. 法学部では、このような教育目標に基づいて編成・実施される教育課程において学び、学位授与の方針に示される知識及び能力等を修得して、様々な分野で指導的な役割を果たすことができるよう、次に掲げる能力・資質等を備える者の入学を期待しています。

(1) 国家・社会の制度や組織等の基礎及び背景を理解し、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉える基盤とするため、人間、社会及び自然に関する基本的知識及び見方・考え方を確実に身につけていること。

(2) 国家・社会の制度や組織の設計及び運営に携わり、企画立案を行い、課題を解決する基盤とするために、(1)に掲げ

る知識及び見方・考え方を活用して、多面的な課題を考える思考力、判断力及び構想力等の基本を身につけていること。

(3) 様々な分野で、多様な人々と協働し、指導的な役割を果たす基盤とするため、多様な考え方を理解し、論議を示して自らの意見を述べるができる基本的なコミュニケーション能力、とりわけ論理的な文章力の基本を身につけていること。

(4) グローバル社会において活躍するために必要な英語その他の外国語の基本的な四技能をバランスよく身につけていること。

(5) グローバルな視野から国家・社会に関する事象に強い関心を持ち、このような事象を本質から理解しようとする知的探求心をもっていること。

(6) 未だ答えのない課題等を自ら見だし、文献や資料等を調査して、徹底して考え抜こうとする自学自習の姿勢を有していること。

2. 法学部では、こうした資質・能力等を備えているか否かを、次のような入学選抜により判定します。

一般入試選抜においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び論述式試験を基本とする4教科の個別学力検査等により、上記の(1)から(6)の能力・資質等を総合的に判定します。

特色入試においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び調査書の成績、日本語と英語の文章を題材とした小論文試験により、上記の(1)から(6)の能力・資質等について、特に(3)及び(6)の能力・資質等を重視して総合的に判定します。

理学部

理学は自然現象を支配する原理や法則を探究する学問であり、その活動を通じて人類の知的財産としての文化の深く大きな発展に資するとともに、人類全体の生活向上と福祉に貢献する知的営為であります。京都大学理学部は、自由な雰囲気の下での学問的活動を何よりも大切に、新しい学問分野の創造に重要な役割を果たしてきました。その一端は、卒業生の中から4名のノーベル賞受賞者と2名のフィールズ賞受賞者を出したことからもうかがえます。現在もこの学風を継承し、多くの優れた人材を輩出する教育機関として更なる発展を続けています。京都大学理学部は、自由の学風の下で、将来の理学の創造、発展、応用、普及のための能力と知識を身につけることができる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

(理学部が理想とする学生像)

- 自由を尊重し、既成の概念を無批判に受け入れることなく、自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- 高等学校の教育課程により培われる十分な科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

京都大学理学部では1学科制のもと、「緩やかな専門化」を経て、それぞれの学生の能力・適性に合致した専門分野に向う教育を行っています。高等学校における数学と理科は、入学後、理学の各分野のより高度な内容を学ぶための基礎であり、それに対応できるような深い理解が求められます。また、国語は、論理的なものごとを考え表現する力の基礎となります。英語の力は、入学後、専門分野の学習、そして、将来の国際的な活動を支えるものとなります。したがって、入学する学生には、将来の専門にこだわることなく、高等学校において、幅広い学習を行っていただくことを期待します。これらの学力を測るために、京都大学理学部では、数学・理科(物理、化学、生物、地学から2科目)・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数も取り入れた合否判定を行っています。

また、理学の中でも特に数理学の分野では、高等学校時から極めて優れた才能を現す者が見受けられます。そのような学生を求めため、京都大学理学部では特色入試を行い、志願者の数学についての取り組みや達成に関する報告書等の提出書類、数学に関する能力測定調査、口頭試問、および大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定しています。

文学部

(1) 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めます。

(2) 京都大学文学部は入学希望者に対し、以下の点を入学前に見えておくことを求めます。

- ①総合的な基礎学力をもっていること。
 - ②過去から現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みに関して、深い関心をもっていること。
 - ③高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力とそれを表現する力をもっていること。
- 入学試験においては、これらの力が具わっているかを判定します。なお、特色入試においては、入学後の勉学についての展望と具体的プランをもっていることも問います。

経済学部

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生を目指す学問です。その研究対象は決して単純ではなく、財政、産業、雇用、金融、地球環境などに解決すべき諸問題が次々と発生し、複雑性を増しています。京都大学経済学部は、自由の学風を維持しつつ、経済学・経営学の基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の変化に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することで学界、官界、産業界に貢献してきました。このような歴史を踏まえ、京都大学経済学部は、経済学・経営学的分析能力を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、教員や他の学生と積極的に討論に対応し、解決策を自ら、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

(経済学部が求める学生像)

- 高等学校教育を通じて広範で高度な基礎知識を身につけるとともに、論理的思考力ならびに語学能力を修得している人
- 社会・経済活動全般に積極的に関与したいと考える、知的好奇心が旺盛な人

京都大学経済学部が求めるような学生の成長を促すうえで、多様な背景をもつ学生を受け入れることが重要であり、現在、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施しています。定員の多くを占める文系入試においては、経済学・経営学を学ぶための基礎となる社会と数学、論理的思考力を担保する国語、専門教育や卒業後の国際的活動に不可欠な英語の4科目に関して個別学力試験を実施しています。理系入試においては、文系入試における社会の試験に代えて理系用の数学試験を課することで、経済分析で重要となる数理的能力を重視した選抜を行っています。特色入試では、書類審査の後、筆記試験で論文を課し、与えられた文章や資料を理解して問題点を把握できる能力、ならびに、自己の主張を的確に表現できる論理構成能力を重視した選抜を行っています。また、これらの3種類の入試においては、総合的学力の評価を行うために大学入試センター試験の点数を取り入れた合否判定を行っています。その他にも、外国入留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供しています。

医学部 / 医学科

京都大学医学部は、1899年(明治32年)に京都帝国大学医科大学として創立された百有余年の歴史と伝統を持つ医学部として、世界に誇る指導的な医学者、医学研究者を輩出してきました。医学部医学科は、京都大学が創立以来築いてきた自由の学風を継承し、医療の原点である「人を愛する」精神のもと、学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しています。このような方針を踏まえ、世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、以下のような学生の入学を期待します。

(医学部医学科が望む学生像)

- 自ら課題を発掘する好奇心や探究心、それを解決しようとする主体性を持っている人
- 高い倫理性と豊かな人間性を備え、他者との協調性を持っている人

●優れた知的能力とともに、国際的視野を持っている人

入学する学生には高等学校等において、教育課程の教科・科目の習得による基礎学力に加え、分析力や俯瞰力により、これを高度な学びへと展開できる向学心を培うことを求めます。医学部医学科が望む学生を選抜するために、一般入試(前期日程)は、大学入試センター試験並びに個別学力審査及び面接試験により、総合的に合格者を決定します。また、医学・生命科学に深い関心を持ち、真摯な姿勢、強い熱意を持って真理を探究し、世界の医学をリードする医学研究者としての資質・適性を持つ人材を求め、特色入試を実施します。高等学校での成績および英語能力において所定の基準を満たす学生を対象に、高等学校での取り組みや医学研究に対する考えに関する報告書等の提出書類並びに小論文試験及び面接試験により、合格者を決定します。

医学部／人間健康科学科

京都大学医学部人間健康科学科は、1899(明治32)年に設置された京都帝国大学医科大学附属医院看護婦見習講習科に始まり幾多の変遷を経て、数多くの医学・医療従事者を輩出してきました。その歴史と伝統を基盤とし、21世紀の医学・医療の発展を担う「人間健康科学(Human Health Sciences)」の確立を目指しています。そこで、本学教育の基本理念のもと、自由の学風を継承し、人類の健康と福祉に貢献する高度医療専門職及び総合医療科学領域における世界トップレベルの独創的な学術研究をリードする人材の育成を使命とし、以下のような学生の入学を期待します。

薬学部／薬科学科

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治療、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。薬科学科では、創薬に関係する幅広い分野において、将来、リーダーとして国際的に活躍することのできる人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- 高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- 自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- 創薬に関心と興味を持ち、将来創薬領域で世界をリードできる薬学研究者を目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治療、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。薬科学科では、医療薬学に関係する幅広い分野において、将来、医療薬学研究者の国際的リーダーとして活躍することのできる人材、および高度な先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして社会に役立つ人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- 高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- 自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- 先端医療・医療薬学に関心と興味を持ち、将来、医療薬学領域で世界をリードできる医療薬学研究者、および先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーを目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

薬学部／薬科学科

このような学生を選抜するために、一般入試を行うとともに、明確な問題意識とそれを解決しようとする極めて高い意欲のある人を特色入試で選抜します。

- 応用生命科学科 生命科学、食料生産、環境保全に強い関心を持ち、生命現象や生物の機能を化学的な視点によって解明・活用することに興味がある人を求めます。また、自分の考えをもつとともに異なる意見にも耳を傾けることができ、自分の考えをまわりのひとに的確に伝えることができる人が望まれます。その選抜にあたっては、筆記試験による一般入試の他に、未知の領域に好奇心をもって挑戦できる人材を選考する目的で特色入試を行います。
- 地域環境工学科 一般入試では、農業・農村問題や環境問題、人類への食料供給問題に強い関心をもち、これらの問題解決に向けた物理学・数学を基礎とした工学的・技術的な方法論に関し勉学を志す人を求めます。ただし、農業生産と密接な関係があることから、生物学や生命科学などにも強い関心を持つ学生が望まれます。特色入試では、食料・環境・農業などの分野において、高度な専門知識と工学的問題解決能力を持って社会のリーダーとなるべき人材を求めます。特色入試において、具体的には大学入試センター試験による基礎学力とともに、小論文試験により問題解決能力、論理的思考力について、面接試験により意欲、適性及び識見について評価します。
- 食料・環境経済学科 一般入試では、食料、環境、農林水産業等において生ずる様々な社会・経済問題に対して強い関心を持ち、幅広い観点から自身の力で論理的・実証的に問題の解決に向かって努力する人材を求めます。理科系科目に興

工学部

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する。」とあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと見るといことです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する。」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を主体とする学部である。」と考えられています。「基礎を重視する。」と言いつつ、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、「基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用展開や技術の発展を可能とするための必須条件である。」という理念の下に、この教育方針を採っています。このような方針の教育を受けてもらうために、次のような入学者を求めています。

- ① 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ② 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと確かめ、得られた情報や知識を整理統合し論理的に考察することによって、物事の本質を理解しようとする人。
- ③ 日本語・外国語を問わず、自らの意見や主張をわかりやすく発信する能力を身に付けるために必須の基礎的な言語能力とコミュニケーション能力を持った人。
- ④ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、数学・理科・英語・国語の基礎学力の評価に重点を置いて、個別学力検査および特色入試を実施し、上述の観点から多様な人材を評価・選抜しています。なお、特色入試では、上記の基礎学力に加えて、特筆すべき理系の能力を持つ人材を求めて、学科ごとに、入学を望む学生像に応じて、調査書、推薦書、顕著な活動実績の概要、学びの設計書、大学入試センター試験の成績、口頭試問の中から必要項目を選択・組み合わせ、人物を評価しています。

(地球工学科が望む学生像)

住みやすくて豊かな都市と地域、安全に暮らせる国土、資源・エネルギーを基礎とした持続的文明、環境に配慮した地球社会を築いていくために、広く社会に役立つ土木工学、資源工学、環境工学を学びたい人を求

めている。国際的に通用する情報を確実に得てグローバルに活躍するためのコミュニケーション能力の涵養が重要となります。したがって、入学する学生は高等学校においてそれぞれの科目を幅広く学習していることを期待します。これらの学力を測るため、本学科では、数学・理科(物理・化学・生物のうちから2科目)・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数を取り入れて、合格者を決定します。また、将来のビジョンが明確にあり、その分野への関心が非常に高い優れた人材を求めると、特色入試を導入し、高等学校における取り組みや活動、大学入学後の学習設計に関する書類選考と、論文試験並びに面接試験及び大学入試センター試験により、合格者を決定します。

めています。社会に貢献するための科学技術を学びたい人、多様な技術を集約して問題の解決をしたい人、官・民・学の広い範囲から就職先を考えたい人、国際的に活躍したい人に最適な学科です。地球工学科での専門知識を習得する上で十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

(建築学科が望む学生像)

人間生活に密接に係わる建築は、多様な技術を総合した創造的な努力によってつくられます。このため、自然科学だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生を歓迎し、その才能を伸ばす教育を行います。建築家、建築技術者、研究者、建築・都市行政の担当者、各種事業に携わるプランナーなどを指す人を望みます。

(物理工学科が望む学生像)

次世代の画期的な機械システム、新材料、エネルギーシステムを開発すること、宇宙空間への活動の場を拡げていくことに強い関心を持ち、社会科学、さらには芸術に向け、古典物理学から近代物理学に到る幅広い物理学を基礎とした工学を学ぶ意欲を持つ人を求めます。物理工学科での専門知識を受けると十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

(電気電子工学科が望む学生像)

自然現象や科学技術、その人間生活との関わりなどに對して広い関心と旺盛な探究心をもつとともに、電気工学関連の学術分野へ強い興味をもち、専門教育を受けるのに十分な基礎学力と論理的思考力を備えた創造性豊かな入学者を求めます。

(情報科学科が望む学生像)

高度情報社会における幅広い問題を情報学の知識と数理的思考により解決することに強い関心を持つ人を求めます。数学、物理学をはじめとする理科系科目に関する十分な基礎学力と論理的思考力に加えて、情報学が関係する人文・社会科学を含めた諸学問に対する興味を持つ人を求めます。

(工業化学科が望む学生像)

化学および化学に関連する工学のすばらしさを理解し、学習する志と意欲をもち、既成概念にとらわれずに物事を論理的に考え、さらに自ら問題を解決しようとする人を求めます。したがって、高等学校での学習内容をよく理解し、工業化学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と能力を有していることが望まれます。

農学部

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である「生命・食料・環境」に関わる様々な複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野とした総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科ごとに異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、応用力と適応力をもって、それぞれの専門教育に必要な学力を有する学生を求めています。その学力を測るため、一般入試では全学科共通で大学入試センター試験の得点に加え、国語・数学・理科(物理、化学、生物、地学から2科目)・外国語(英、独、仏、中から1科目)の個別学力検査を実施して入学者選抜を行っています。また、各学科の示す人材を求めるとして特色入試も行い、調査書、学業活動報告書、学業の設計書、大学入試センター試験の成績のほか、英語能力検定試験、小論文、口頭試問、面接試験を学科ごとに組み合わせるとして合否判定を行っています。

- 資源生物科学科 農業、畜産業および水産業が抱える諸問題や生物学的諸現象に広く関心を持ち、勉学意欲に富み、問題に対して幅広い視点から論理的に解決策を見いだせる人材を求めます。したがって、英語などの基礎科目について十分な素養を備えているとともに、とりわけ生物をはじめとする理科の科目に関して十分な学力を有していることが望まれます。